

令和7年度協働事業の評価及び委員意見

協働事業名	若い世代で戦争の紙芝居を伝承しよう～デジタル化による新たな紙芝居を創る～		評価欄 A
協働事業者	一般社団法人オリーブ協会	市担当課	文化交流課
事業の概要	<p>戦後80年を迎え、戦災体験者も年々減り続けている。平和の大切さを伝えられる紙芝居等は多くあれど、それを伝えられる人たちも少なくなっている。</p> <p>本事業は、学生を募集し、これまで公演を行ってきた「戦争の紙芝居」を聴いてもらい、一緒に考えながら、紙芝居を半永久的に残せる動画コンテンツ等にデジタル化する取組みである。学生には、プログラミングや音・映像の加工などの役割を担ってもらい、この事業をきっかけとして、平和への意識醸成と次世代へ語り継ぐ役割を担ってもらうことを目的としている。</p>		
委員会意見	<p>本事業は平和教育という難しいテーマに対し、資料のデジタル化やプログラミングといった現代的なアプローチをしており、探究型学習のプロセスが採用されている点や、親子で参加できる点など、とても良い取組みであった。初めの頃は悲惨な内容に衝撃を受けていた子供達が、最終的には1つの作品を作り上げることができたことを高く評価したい。</p> <p>一方で、子供達がゲーム感覚でプログラミングに取り組んで終わってしまわないよう配慮が必要である。紙芝居に込められた意味や背景を考える過程を大切にいただき、参加した子供達にはラーケーション等の制度を活用し、自分達が事業に携わったことに対して誇りを持って、作品を広めていっていただきたい。</p> <p>また、講座への参加者数が少ない点は残念であった。継承していくことに重きを置くのであれば、参加者募集の広報等にも力を入れていただきたい。作品がデジタル媒体という強みを活かし、ネットでの配信等で作品を広めていくことも検討していただきたい。</p> <p>本事業は、令和7年度が最初の事業年度であり、メディアをうまく活用して注目を集めた事業であった。今回の作品は広島原爆をテーマとしていたが、水戸市にも戦争の被害の歴史があるので、今後テーマとして検討していきたい。</p>		

令和7年度協働事業の評価及び委員意見

協働事業名	空き家に関するワンストップ総合相談窓口事業		評価欄 A
協働事業者	特定非営利活動法人ふるさと空き家相談・サポート	市担当課	生活安全課
事業の概要	<p>「空き家に関するワンストップ総合相談窓口」を設置し、水戸市内の空き家を所有する方、所有する住まいが空き家となる可能性がある方、相続等の理由により空き家を所有する可能性がある方に対して、適切な助言・提言や適正管理・利活用に関する支援を行い、空き家所有者等の負担軽減を目指す。</p> <p>また、空き家関連のセミナー・個別相談会を開催し、空き家の掘り起こし、空き家を所有する可能性のある方へ事前準備の支援を行うことで、問題解決の早期化を狙う。今年度は、セミナーのオンライン化、開催頻度を高め事業を実施した。</p>		
委員会意見	<p>本事業は重大な社会課題である空き家問題の解決に取り組み、3年間で非常に多くの案件を対処しており、とても費用対効果が高い事業であった。わくわくプロジェクトの協働事業としての期間は終了してしまったが、今後も民間の助成金や、協賛企業との繋がりを活用し、事業を持続可能なものにしていただきたい。</p> <p>一方で、「広報みと」の広告掲載料への支出が多いのに対し、結果として広報誌やチラシの効果が薄かったことは残念であった。相談のきっかけについては市窓口からの紹介が最も多かったが、それだけでは今後空き家を所有する可能性のある方など、本来届けるべき相手へ情報を行き届かせることが難しいため、事業者側から働きかける広報手段について、引き続き検討していただきたい。</p> <p>また、担当課との3年間の協働事業を通して、空き家相談に係る連携が確固たるものになっていると感じる。空き家問題の重大さから、担当課に対しては今後、自課の窓口だけでなく、相続手続きや固定資産税に関連する窓口と連携して事業者の紹介を行うなど、庁内及び事業者との連携を継続していただきたい。</p>		

令和7年度協働事業の評価及び委員意見

協働事業名	地域と動物の共生プロジェクト		評価欄 A
協働事業者	いばらきのシッポの幸せの会	市担当課	保健衛生課 動物愛護センター
事業の概要	<p>動物愛護に関する情報を地域全体に分かりやすく伝え、動物と人間が共存できる持続可能な社会を目指すとともに、地域のつながりを深め、草の根レベルでの意識改革を実現することで、野良猫問題などの解決にも寄与する事を目的とし、以下の事業を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 動物飼育マナーや野良猫問題への取り組みを分かりやすくまとめたリーフレットを作成し、自治体回覧版を活用した情報配布を行った。 2 ペット飼養の見える化を推進するステッカーを作成し、動物愛護イベント、動物病院窓口等で配布した。 		
委員会意見	<p>本事業では回覧板を活用した情報配布や、動物愛護センター及び動物病院を経由したステッカー配布等を実施しており、よく工夫して啓発活動に取り組まれていることが伝わった。また、活動を通して繋がりが生まれ、サポーターの輪も広がる等、活動が地に着いてきたことが感じられた。</p> <p>その一方で、啓発が成果に直結しているのかについては判断に迷う部分があった。受け手の興味関心の度合いによっては情報の見落としや、情報が行き届かない場合があるため、一方的な情報提供や啓発になってしまわないよう、受け手との温度差を埋める方法を検討いただきたい。</p> <p>また、誰に対してアプローチするのか、ターゲットを検討する必要がある。例えば、飼い主の高齢化が進んでいることに着目し、高齢者をターゲットとして、高齢福祉課や地域包括支援センターと連携したアプローチ等を検討いただきたい。</p> <p>広報手段についても、ペットフードを扱っている販売店等にも掲示場所を広げたり、ペットや動物愛護とは関係ない方も多く集まる「まちなかフェスティバル」等のイベントにブースを出す等、これまでと異なるターゲットへのアプローチを行っていくことも有効であると考えます。</p>		

令和7年度協働事業の評価及び委員意見

協働事業名	ドライバーサポートフィットネス「ドラサポ」		評価欄 B
協働事業者	特定非営利活動法人ちいきの学校	市担当課	高齢福祉課
事業の概要	<p>高齢者ドライバーの交通事故や運転免許返納問題に加え、75歳以上に設けられた免許更新時の認知機能検査などに不安を抱える方も多い。本事業では、65歳以上を対象に、運動を通じた身体的機能（筋力、反射力、柔軟性）や認知機能の維持を目的にした講習会を実施した。</p> <p>講習会では、体力測定や認知機能検査による数値的評価を参加者に公開し、脳トレやマット運動、ストレッチ等の運動を実施した。また、講習会修了者へのアフターフォローとして、希望する方に継続者向けの講習会も開催した。</p>		
委員会意見	<p>本事業は高齢者の運動機能・認知機能の維持と向上を目的としたトレーニング講習会により、参加者から非常に高い満足度及び継続希望の声を得られていた。担当課との協働のプロセスにおいても、共通理解を深めながら進められていたことが感じられる事業であった。</p> <p>一方で、わくわくプロジェクトの協働事業としての期間が終了してしまい、今後どのような形で継続していくかが課題である。講習会への参加者を実人数で考えた場合、一人あたりにかかっているコストが高いと感じられたため、多くの人気が軽に参加できるように参加費用を下げる等、参加者の間口を広げる方法を検討いただきたい。</p> <p>また、補助金を多く割り当てていた印刷製本費について、チラシの折り込みをやめてインターネットの広報に切り替える等、使い道を変えていく対策が考えられる。企業からも声がかかっているとのことなので、行政のみならず他の主体とも連携しながら、今後も事業を継続していただきたい。</p> <p>令和7年度で協働事業3年目であることを踏まえ、今後も市と連携を図りながら、参加者のニーズを捉えた企画が実現されるよう期待している。さらに、講習会終了後も運動機能・認知機能の維持ができているかを検証する機会を設ける等、講習会の内容についても、更なる改善に努めていただきたい。</p>		

令和7年度協働事業の評価及び委員意見

協働事業名	しもいち実証実験教室		評価欄 A
協働事業者	さととし	市担当課	都市計画課
事業の概要	<p>備前堀とその周辺における景観保全・形成と歴史的資源の活用を軸に、地域住民や市民、来訪者が主体となる交流と実践の場を創出していく。本年度は、「空き店舗」を拠点とした実証実験を展開し、以下の活動を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域で挑戦したいアイデアを持つ市民の募集 2 下市エリアにまつわる歴史や景観の学びと視察 3 募集者とともに歴史や景観を守りながら空間を活用する方法を具体化 4 空き家等を活用し、1日出店などの実験的プロジェクトを実施 		
委員会意見	<p>若い世代の起業のワンステップとして、横の繋がりを作り、自身の糧としていけるような事業であった。ハードルが下げられていることで参加しやすいだけでなく、参加者に対して非常に丁寧に進めるプランとなっていることを評価したい。</p> <p>参加者の中には、マルシェの来場者から声をかけられ、既に次の展開が見えてきている人もいるとの話もあり、人を育てていくことを目指して進めた成果が出ていると感じる。今後、フォロワーの作り方、育て方についても明確なプロセスを確立することで、更に輪が広がっていくことが期待できる。</p> <p>一方で、下市の景観のまちづくりという要素については深掘りの余地がある。景観の形成・保全等を目指すのか、賑わいづくり・人材育成を目指すのかの方向性については、今いちど検討いただきたい。事業を実施していく上で、下市の空き店舗に参加者が定着する事業内容を加えるなど、下市のまちとの連携を深め、住民や商店街の人達の喜びにも繋がる事業となっていく事を期待する。</p> <p>ためしもいちマルシェについては、単発のイベントに終始してしまっている印象があるため、例えば、下市のハミングロードに拠点を何か所か設けて回遊性を高めるなど、開催方法について検討していただきたい。</p>		

令和7年度協働事業の評価及び委員意見

協働事業名	次世代継承店舗と学生がつくるまちづくり～起業ゲームから実践へ～		評価欄 B
協働事業者	23RD まちづくり株式会社	市担当課	商工課
事業の概要	<p>地域への学生アイデアの取入れや、若い世代の創業機運醸成に取り組み、地域経済の活性化や若者が活躍できる社会の実現を目指し、水戸のロマンチックゾーン（末広町～袴塚）周辺地域において、大学生などを対象にした「地域リサーチ×起業体験ワークショップ」を開催した。ワークショップでは、以下の内容を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 まち歩き調査（フィールドワーク）、店舗インタビュー（ヒアリング） 2 フィールドワークで得た課題や可能性からアイデアの創出・事業計画 3 既存店舗の一部を間借りして、1ヶ月間のチャレンジ出店 		
委員会意見	<p>本事業は専門家と学生でデザインする創業体験事業であり、そこに学びのプロセスが入っていることを評価したい。参加学生へのアンケート結果によると、レクチャーを受けた段階ごとに様々な気づきがあったようで、学生にとっては質の高い学びを得られる内容であったことが伝わる報告であった。</p> <p>一方で、タイトルにある「次世代継承」や「まちづくり」といった要素が薄く、タイトルと中身がうまくかみ合っていないと感じた。現状、学生と外部の専門家との関わりが中心となっており、地域の人達との関わりや相互に与える影響が薄い印象であった。地域住民の反応が見えないことは残念であり、今後の地域との関わり方については更なる検討が必要だと考える。加えて、担当課との連携についても、協働事業評価シート of 項目に「×」が付くなど、担当課との事業の振り返りや調整が密にできていない報告が見られたため、今後は、地域の人達や担当課と共通理解を深めながら、タイトルどおり「次世代継承」や「まちづくり」といったテーマに繋がっていくことを期待する。</p> <p>ポップアップスタディーズの冊子については、各ページ充実しており、内容もすばらしいので、これを1枚の紙にまとめて可視化し、より活用しやすいものにしていくことを検討いただきたい。</p>		

令和7年度協働事業の評価及び委員意見

協働事業名	参考書バンク		評価欄 A
協働事業者	茨城高等学校国際教養コース・これミラ班	市担当課	ごみ減量課
事業の概要	<p>受験や試験後に高校生や中学生によって廃棄されてしまう参考書の数を減らし、廃棄削減に貢献することを目的に、高校生の目線で、参考書を中心としたリユース事業を実施した。本年度は、以下の内容について実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 茨城高校、水戸市役所などへの回収ボックスの設置 2 イベントへのブース出店など回収した本の譲渡会を開催 3 SNS や路線バスでの車内放送など学生をターゲットにした情報の発信 4 イベントでのSDGsをテーマにしたセミナーの実施 		
委員会意見	<p>SDGsにならう有意義な事業であり、活動そのものに高校生らしさを感じられる。高校生がやることに大きな意味がある取り組みであった。</p> <p>夏の暑い中で譲渡会を開催したり、限られた時間の中で担当課との打合せを行ったり、大変だったと思うが、高校生が組織や社会に関わっていくプロセス自体に教育的な価値があると感じられた。</p> <p>回収した参考書については、ジャンルによって譲渡先やアプローチ方法が変わってくるので、今後はジャンル毎にパターン整理を進めていくことを検討いただきたい。</p> <p>経験が浅い中で、イメージしていた通りに事業が進まないときもあると思うが、そこから何を学ぶか、どのように展開していくかについては、担当課を含め周囲でサポートできる体制を整えていただきたい。</p> <p>課題として出版社への配慮を挙げられていたが、どう対処するのかが具体的に検討されていない点が残念であった。こども食堂の事例を参考に、譲渡の対象を生活が困窮している学生に限定したり、回収した参考書は最新の物に比べ情報量の面で劣ることを説明していくことで、出版社との棲み分けが可能であると考えます。</p> <p>また、活動の継続については、探求の授業の中だけで本事業が終わってしまわないよう、誰がどのように引き継いでいくかが課題である。サブリーダーズ会等、他の高校生の市民活動団体とも連携して、横の連携を広げていくことも検討いただきたい。</p>		

評価過程・評価基準

【 評価過程 】

5月27日に実施された事業報告会において、協働事業の実績報告書をもとに、協働事業評価シートに沿って、事業の概要、利用者からの評価及び決算報告等について、協働事業者と市の担当課から報告を受けた。また、協働事業者及び市の担当課に対して、委員による質疑応答を行った。

その後、全体での審議において、今後事業を展開するにあたり、協働事業者と市の担当課とが更に協議を深めるべき事項について意見交換を行った。

【 評価基準 】

実績報告票及び協働事業評価シート、並びに事業報告会をもとに、Plan（企画・計画段階）、Do（実行）、Check（評価）、Action（見直し）の4つの項目に沿って採点した。各委員の持ち点を20点とし、全委員の採点を合計した総合得点を評価の基礎とした。

また、今回の審査では、採点基準を次のように設けた。

☆ 各委員の1項目の評価（5点満点）×4項目×8人＝160点満点

			採点基準
A	評	価	120～160点
B	評	価	80～119点
C	評	価	40～79点
D	評	価	0～39点

☆ 審査項目及び審査の視点（20点満点）

審査項目	審査の視点	配点
1 P l a n (企 画 ・ 計 画 段 階)	① 事業目的を明確にし、協働する必要性について十分検討したか。 ② 協定書の内容は明確にしたか。 ③ 事業計画は双方協議して作成したか。	5
2 D o (実 行)	① 事業の進捗を共有したか。 ② お互いに役割を果たしたか。 ③ 適切に進行管理できたか。 ④ 変更事項の協議を柔軟にできたか。	5
3 C h e c k (評 価)	① 組織内部で事業を振り返ったか。 ② 受益者の評価を得られたか。 ③ 双方で事業を振り返ったか。	5
4 A c t i o n (見 直 し)	① 改善すべき点が明確になったか。 ② 改善方法は具体的か。	5